第３種郵便物認可　北海道

安渓さんが資料館に寄贈した仮面。（右から）レガ民族の「ケモナ」と別の１点、ソンゴーラ民族の２点、レガ民族の別の１点、ベンベ民族の１点

先住民族の教訓示す アフリカの仮面寄贈

人類学研究者・安渓さん 二風谷アイヌ資料館に

安渓遊地さん

【平取】世界の先住民族の民具を展示する町二風谷の萱野茂二風谷アイヌ資料館に、アフリカのコンゴ（旧ザイール）のレガ民族らが作った六つの仮面が寄贈された。送り主は、長年同国で調査を続けた山口県立大の名誉教授で人類学研究者の安渓遊地（あんけいゆうじ）さん(72)＝山口県在住＝。故萱野茂さんと交流があり、現地で集めた仮面を1992年に続き資料館に持ち込んだ。

寄贈された仮面は、コンゴ東部の南キブ州とマニエマ州に住む先住民族のレガ民族の3点とソンゴーラ民族の2点、ベンベ民族の1点。全て木や動物の骨で作られている。仮面のデザインには人生の教訓が込められ、儀式での歌や踊りの際、身に着けたり持ったりして若者に伝えるという。

レガ民族の仮面の一つ「ケモナ」は丸い穴の目が特徴で、「大きな目を開けて物事をよく見極めなさい」との教えを表現した。ソンゴーラ民族の2点は耳や顔が細長く、安渓さんは「獣のようだが、人の心のありようを表している」といい、強い態度で相手を激しく非難する人に対する戒めを込めた。ベンベ民族の仮面の詳細は不明。

安渓さんは京都大大学院で文化と自然との関わりを研究し、博士課程2年目の78年に旧ザイールを初訪問。現地の人々と生活しながら文化や暮らしを体感した。90年までに3度足を運ぶ中、先住民族の仮面や彫像にも興味を持ち、使われなくなった計35点を現地の商人から購入した。

92年に山口県で萱野さんと知り合い、先住民族の道具や衣装を集める資料館の趣旨に賛同した安渓さんは同年、レガ民族の仮面や彫像を計28点寄贈した。「『学者はアイヌの民具を持ち去るばかり』という萱野さんの言葉を読み、持ち込む学者がいてもいいのではと思った」と振り返る。

92年に続き２度目「精神世界の教科書見て」

今回は7月18日に同館を訪れ、萱野さんの次男の萱野志朗館長(65)に仮面を手渡した。「精神世界の教科書として使われていた仮面を、ねぎらう気持ちで見てもらえれば」と安渓さん。

同館の入館料は大人400円、小中学生150円。午前9時～午後5時。11月16日～4月15日は事前予約が必要。問い合わせは同館、電話01457・2・3215へ。

（杉崎萌）